

本年度の重点	1	つながりの中で自己肯定感を高める教育活動
目標（評価規準）	児童が自信を持って行動できる姿	
重点に係る現状 設定理由	・体験や児童同士のつながりあいの中で、励ましあう、認め合う等の活動を積み重ね、児童の自己肯定感や自信がより高まっていくような教育活動を進めていきたい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・指導の状況把握と情報共有に基づく職員全員による児童の指導については、概ね良好である。 ・人と自分、社会と自分とのつながりの中で自分自身の存在を肯定的に実感できる指導については、概ね意識した指導が行われているが、その実現に向けてはまだ途上である。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童への対応、指導に対する項目については、保護者、児童アンケート共に全体的に肯定的な回答をいただいているが、一部の児童からは、自信を持っていない様子が伺える。
自己評価結果 （見解と改善方策）	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の状況把握については、職員全体で日常的に特に意識をしながら進めることができ、概ね情報共有はスムーズに行うことができた。ただ、個別の対応については、担任や担当が中心に対応していくことになるので、初期対応を含めた教職員の意識向上、スキルアップを研修の機会を有効に活用するなどしながら進めていく必要がある。 ・児童の自己肯定感を高める指導については、児童同士のつながりの場の設定やその中でのかかわりの中での教師が意図的に自尊感情に関わる場面は増えてきているものの、自己肯定感を高めるという意味では対応にまだ改善の余地がある。児童に寄り添うことの意味や時には児童に深く考えさせる場面を効果的に設けるかかわり方など、教師の指導の幅を広げる取り組みをさらに進める必要である。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は毎日の学校生活を楽しく過ごしているように感じる。とはいうものの子どもがたくさん集まる学校であるからには、ぶつかり合いやトラブルが起きるものである。それらを貴重な場ととらえ、子どもを学ばせ、成長させていくことが大切であり、今後も子どもに寄り添った指導をお願いしたい。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の状況、対応の共通認識による職員全体の指導体制は現状を基盤としながらその年の職員構成を踏まえてより適した方法を柔軟に選択しつつ改善を進めていく。 ・児童の自己肯定感を高めることの重要性、考え方、そのための対応のあり方について常に原点に戻り、職員全体で共通認識を図り取り組んでいく。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	・基礎学力の定着、関係性を生かした教育活動
目標（評価規準）	学習内容を自分や社会と関連付け、自分事として学習できる姿	
重点に係る現状 設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や領域によって基礎学力の定着にむらがあるのが現状である。本校の児童の現状を全体的に、また個別に捉え改善点を見出していきたい。 ・児童の学習に対する意欲喚起のために、より児童が受け身でなく主体的に自分と関連付けながら学習内容と向き合えるような授業づくりを目指したい。 	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・全般的に課題はあるものの、概ね順調な取り組みである。 ・校内研究については、順調な取り組みであり指導力の向上に役立っている。 ・児童は、算数への取り組みに意欲を持っている反面、文章題、応用問題になると苦手意識を持つ児童がおり、言語活動との関連が見て取れるとの印象を持っている。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートでは、児童の基本的な学力を身につけるための本校の取組みに肯定的な回答をいただいている。 ・児童アンケートでは、授業はよくわかると回答している児童の割合が多い
自己評価結果 (見解と改善方策)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上については、学校での取り組みに加え家庭学習との連携等により、全体的には成果が表れつつある。しかし、児童や教科によっては授業の時にわかったと感じても定着に至っていない状況もある。より児童の実態に合わせ定着に向けた工夫を柔軟な視点で行う必要がある。 ・校内研究の充実については、職員が意欲をもって年間を通した取り組みを進めることができている。教科の枠を超え、言語に関わる力を定着させていくためにさらに研究を深めていきたい。 ・児童が自分と人や社会とのつながりを実感できる指導については、意識した取り組みが増えているものの、児童が主体的に取り組める活動を行うための考え方をさらに広げていく必要があると考える。職員の指導観や授業観などの見直し改善をより一層進め、幅広い視野による対応力を高めていきたい。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は、授業に前向きに取り組んでいる姿が伝わってくる。人や地域とのかかわりを大切にした教育活動を更に進めてもらいたい。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業プラス学力の定着の視点で取り組みを進める。 ・校内研究を継続し、児童が豊かなコミュニケーションに資する指導力を高める。 ・児童の学習意欲が高まるよう、現状の課題を分析しながらより児童が自分の力で考え、行動する力が身につくよう、指導方法の幅を広げ実践を積み重ねていく。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	・態度、行動を育てる教育活動
目標（評価規準）	・向上心をもって目標を立て実現に向けて努力する姿	
重点に係る現状 設定理由	本校は児童同士、また職員との関係の中で穏やかな学校生活を送ることができている反面、向上心、粘り強く物事に取り組む気持ちを生かす場面が作りにくくなっている現状がある。児童の主體的により高い目標に向けて努力できる資質を育てていきたい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や体験が自分自身の行動への意欲につながる指導については、職員全体で高い意識を持って取り組むことができている、しかし学習に対する苦手な気持ちを持った児童への対応には課題が残っており、さらなる取り組みが必要である。 ・あきらめずに粘り強く物事に取り組む態度を育てる指導については、意識した取り組みが行われているものの児童により、また児童ごとの苦手意識等により差があるとの課題意識を持っている。
各アンケート等の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート、児童アンケートからは児童が概ね意欲的に学校生活に臨んでいる姿がうかがえる
自己評価結果 (見解と改善方策)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がどれだけ自分事として捉えているか、またより良いものを目指す意欲を喚起させているかについてはまだ課題が多いと考える。より児童が主體的に考えて行動する機会を増やし、適切な評価を与えることが必要であり、そのための職員の意識をさらに一歩前進させる必要がある。 ・自分事として意欲を持つことが自分自身の目標設定につながり、そこを目指した粘り強い取り組みに結び付くと考える。児童の意欲を高める指導と粘り強さを育てる指導を一体的にとらえ、本校の教育活動の目標の一つとして取り組んでいきたい。
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは楽しく学校生活を送っているが、社会的な環境が豊かで便利になる中で、歯を食いしばって頑張る機会が少なくなっているかもしれない。大人のかかわり方が丁寧になり過ぎたり先回りしすぎたりしないようにすることも大切ではないか。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがより意欲を高め、また自分の力で粘り強く取り組む力が育つよう、引き続き、体験のなかで成功や失敗の経験と、そのことの反省や評価を大切にす指導を充実させていく。